

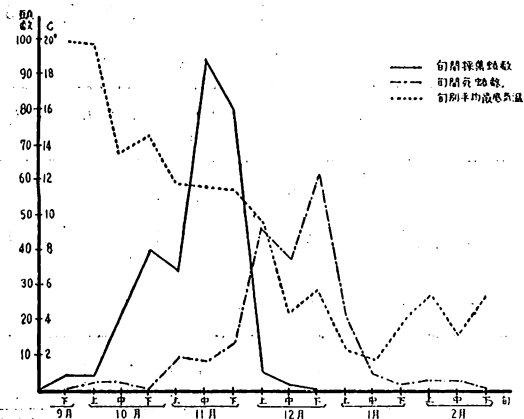
アケビコノハの生態に関する研究 (第2報)

宮迫 一郎*・河野通昭*

MITAZAKO, I. & KAWANO, M. Ecological Studies of *Adris tyrannus* GUR'NE'E (2)

1. アケビコノハの越冬状況について

I. 成虫態；秋期発生 (第3回) は9月下旬に始まり大部分は12月迄に死亡するが一部は越冬して翌春2月迄生存した。図は発生消長及越冬状況。



成虫は与えられた柑果を吸汁し産卵を行った。即ち11月1536粒、12月496粒、1~2月47粒を産卵した。又死亡した雌について胎内の蔵卵調査を行った。

第1表 蔵卵調査の一例

| 調査月日 | 11.21 | 12.17 | 12.22 | 12.27 | 1.6 | 1.28 | 2.17 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----|------|------|
| 調査頭数 | 3 | 15 | 10 | 11 | 12 | 3 | 2 |
| 蔵卵頭数 | 1 | 6 | 8 | 7 | 8 | 2 | 2 |
| 平均蔵卵数 | 101 | 84 | 175 | 155 | 77 | 116 | 212 |

* 鹿児島縣農業試験場 垂水柑橘分場

即ち越冬期の成雌は年内に産卵を終えるもの、年内に一部を産卵し越冬后更に引きつゞき産卵するもの、越冬后始めて産卵するもの等の三種が混在した。

II. 卵態；11月に産まれた卵は年内に孵化したが12月に産まれた卵は卵態で越冬し翌春孵化した。その間卵は氷点下の低温にあつても孵化能力を有した。

第2表 越冬卵孵化状況一例

| 産卵日 | 孵化日 | 卵期 | 孵化数 |
|--------|-------|----|-----|
| 12. 8 | 1. 14 | 37 | 6 |
| 12. 9 | 1. 14 | 36 | 3 |
| 12. 10 | 1. 26 | 47 | 24 |
| 12. 13 | 1. 21 | 39 | 23 |

III. 幼虫態；11月に孵化した幼虫は越冬して翌春蛹化、羽化した。越冬幼虫は前世代の幼虫に比し経過に長期間を要した。中令期以上の幼虫は低温にも耐え得るが初令幼虫は殆んど低温の為死亡した。

越冬幼虫は1~2月に氷点下の低温に12回、降雪に2回あつた。低温時の幼虫は尾脚で食草の下面に附着し頭胸部を垂下静止して摂食しなかつた。

越冬幼虫の野外食草としてはアケビ、ムベがある。

第3表 幼虫越冬状況

| 産卵日 | 孵化日 | 卵期 | 結溝日 | 蛹化日 | 幼虫期 | 羽化日 | 蛹期 |
|-------|-------|-----|------|------|-------|------|------|
| 11.11 | 11.21 | 8.9 | 2.24 | 3.3 | 114.1 | 4.5 | 30.0 |
| 11.16 | 11.25 | | 3.22 | 3.27 | | 4.25 | |

IV. むすび；以上に述べた如く本県ではアケビコノハの越冬形態は成虫、卵、幼虫の3態であつて蛹態は見られなかつた。